

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成13年度 第2号

2001年10月2日

北海道立函館水産試験場室蘭支場

Tel: 0143-22-2327

Fax: 0143-22-7605

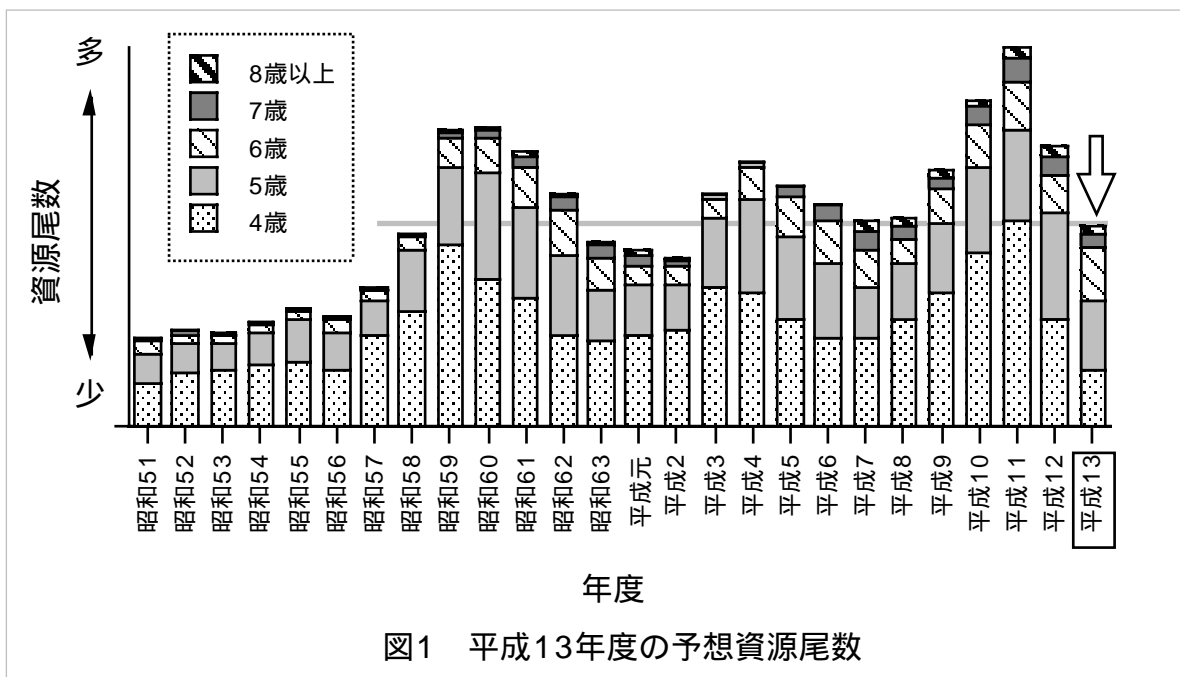
平成13年度道南太平洋海域スケトウダラ漁況について

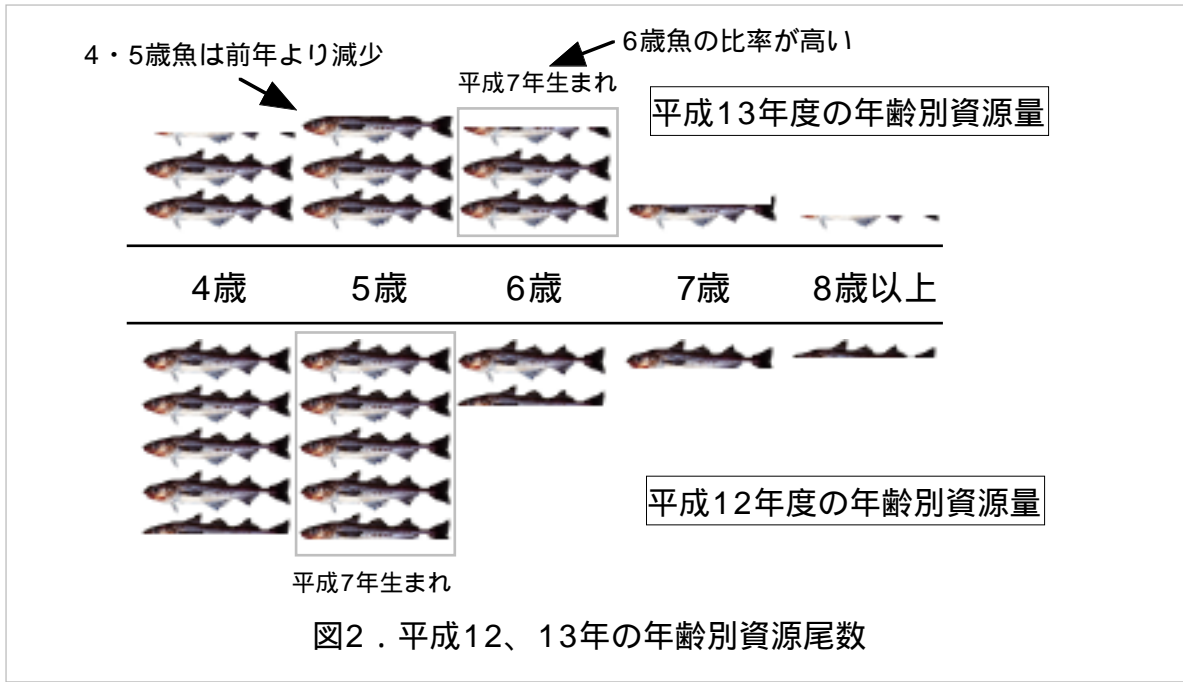
道南太平洋海域のスケトウダラ漁況についてお知らせいたします。

(内容は胆振渡島すけとうだら刺網協議会総会に報告したものです)

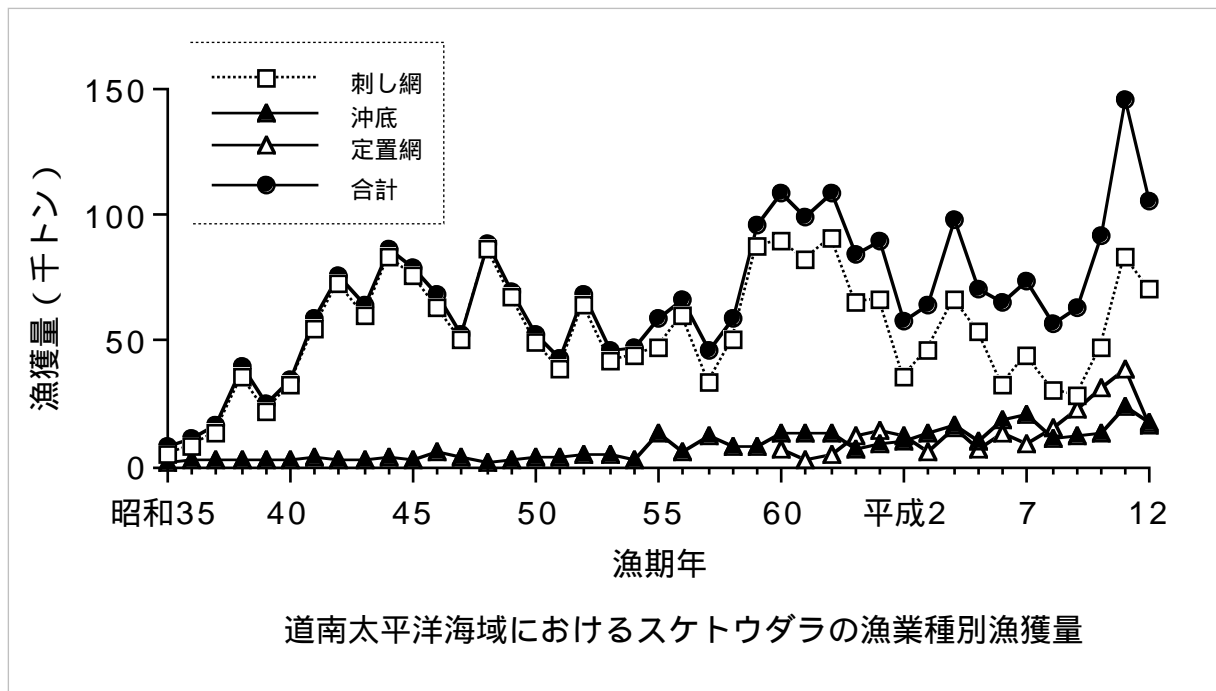
- ・ 資源量は前年を下回り、平成7～8年並の水準に下がるでしょう
資源は、減少傾向にあると考えられます
(漁獲量におきかえると、平成8～10年程度の資源です)
- ・ 漁獲物は大型の魚が多くなるでしょう
- ・ 魚群の来遊は昨年同様遅くなる可能性があります
- ・ 漁場は例年同様、漁期はじめに300m前後に形成され、漁期がすすむにつれて水深200m以浅の陸よりに移動するでしょう

- 1 平成10～12年までの高い漁獲を支えてきた平成7年生まれの魚は、今年6歳となり、後に続く平成8年生まれ(5歳)、9年生まれ(4歳)の魚はこれより少ないと予想されることから、資源減尾数は平成12年より減少し、平成7～8年並となることが予想されます(図1～2)。資源は減少傾向にあり、漁獲も資源の減少に伴って減ると考えられます。





- 2 平成13年は6歳魚の比率が多いため、漁獲物も大型魚の比率が増え、平均すると前年よりひとまわり大型化すると予想されます（図2）。
- 3 高年齢魚の比率が高いと予想されることや、漁期前の計量魚探調査の結果から（詳しくはスケトウダラニュース1号を参照して下さい）みて、魚の来遊は昨年と同様に「遅くなる可能性があります。はしりの漁獲動向に注意して下さい。
- 4 漁期前の計量魚探調査の結果では、水温環境、スケトウダラの分布水深ともに例年と大きく変わる点がないことから、漁場も例年同様となると予想されます。



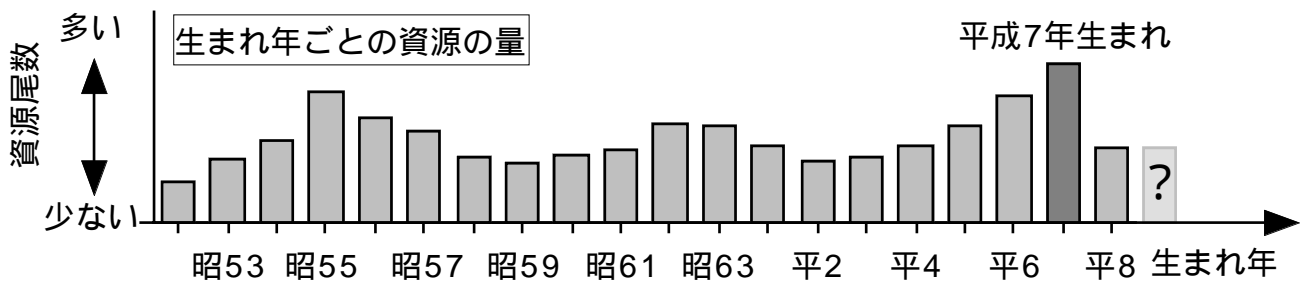


図9．道南太平洋海域におけるスケトウダラの漁獲量の経年変化と生まれ年毎の資源尾数